



# 広報

# もりよし

発行編集・森吉町役場総務課  
印 刷 所・米内沢中央印刷所

11月号

No.264



## ノロ川牧場竣工

### 畜産農家の期待を集めて

#### 住民登録人口

昭和54年10月末現在

男	5,270	(-17)
女	5,686	(-17)
計	10,956	(-34)
世帯数	2,757	( 0 )

「ノロ川牧場」は、肉用牛の生産振興をめざし、森吉地区草地開発事業として昭和四十九年度から建設がすすめられてきました。総額四億五、九七八万円をかけて竣工なった牧場の規模は、全体面積四九五ha（うち草地造成二五〇ha）で附帯施設として、避難舎、推肥舎、パドック、看視舎、トラクター二台、格納庫、薬浴、自家発電、通信設備等が整備されております。牧場の管理経営は町が主体となり毎年六月一日から十月二十日まで地域内肉用牛を受託放牧します。

牧場の管理経営は町が主体となり毎年六月一日から十月二十日まで地域内肉用牛を受託放牧します。

肉用牛の計画飼養頭数は繁殖牛四五〇頭、育成牛五〇頭、子牛二五〇頭ですが、この牧場が利用されることにより夏山冬里方式が確立され、農家の飼養管理の省力化、飼育費の低減などを通じて畜産経営の負担増が緩和されるとともに肉用牛の繁殖育成がさらに促進されるものと畜産農家から大きな期待が寄せられています。

# 子牛のせり市

## かつてない高値



子牛のせり市が、北秋田畜産農業協同組合連合会の主催で十月二十三日と二十四日に行なわれました。

せりには褐毛和種のオス二十三頭、去勢二十六頭、メス三十六頭、黒毛和種のオス四十二頭が出されました。最高価格は、褐毛が、メス十一ヶ月、体重三十六kgで五二〇、〇〇〇円でした。また、平均kg単価は、褐毛がオス一、三五九円、去勢一、一七四円、メス一、

うです。しかし一方では肥育の採算が気がかりとの声も聞かれました。この高値は子牛生産の減少が大きな原因と考えられます。畜産農家にとっては今後の子牛生産の励ましになったよ

# 熊異変

これまでに7頭しとめる



(根小屋でしとめた熊)

山に出没しているのは全県的な傾向のようですが、当町に於ても栗林が荒され、放牧中の牛が襲われ、果てケガをするなど熊の被害が大きく、獣友会に駆除を委託するなど対策を講じてきました。これまでに米内沢中道岱でオス熊(五才)、木内でメス熊(五才)、小滝でメス熊(五才)、最

近では十月十八日に細越沢でオス熊(五才)、十月二十四日に森吉沢で子グマ二頭、十月二十七日には根小屋で体重九〇kgほどもあるオス熊(七才)を獣友会員が射止めました。

ところで、根小屋でしとめられた熊は解体したところ子グマを食べていたこと

が確かめられました。

熊は、雑食性とはいえ、

ふだんはブナ栗などの植物

質のものを多くとります。

が、最近のように牛や子グ

マまで食べるなど、どうも

うさを増してきているのは

山に植物質の食物がかなり

乏しくなった環境の変化が

原因との観測もあります。

## 畜産改良組合

### 家畜共済促進で表彰

第百二回県種苗交換会の協賛行事として十一月三日に行なわれた県農業共済大会において、当町畜産改良組合が、家畜共済加入促進で大きな成果をあげ、表彰されました。畜産改良組合は、参加農家三百三十戸で飼養頭数四百三十頭ですが組合員相互の協力体制もとのつており、共進会などでも優秀な成績を収めてお

ります。こうした成果は、畜産農家の努力によることは言うまでもありませんが、農業共済補償制度による畜産經營への援助も大きな支えとなっています。

ノロ川草地開発事業も竣

工し、共済制度の活用と合

わせて今後の畜産経営の發

展が期待されます。

### 桂瀬の表忠碑

## 保健婦だより

### 町民の保健意識調査

#### アンケート調査より

保健意識についてのアンケート調査がまとまりました。アンケートの回収率は六七・八%でしたが、結果の概略を紹介します。

##### 一、健康ですか。

八〇%の人が健康と回答されました。が、一七%の人が健康に何らかの不安を持っています。

##### 二、健康は自分で守ってますか。

自分で守っているという人が九三%でしたが、一三%の人が、家族や医者に頼っている傾向があり、自分の健康は自分で守るべきこと

##### 健康相談に応じる保健婦



### 交通安全県民大会で表彰される



### 消防団長に庄司元太郎氏

前森吉消防団長の柴田直松氏が定年退職されたことにより、前副團長の庄司元太郎氏（55）が、推薦会の結果新團長にえらばれ、十一月一日付で発令されました。

長い間ごくろうさまでした

前田鍛治町

</

